

# さたけ散歩

第2号

◇次号予告◇

次回のテーマは「新吉原と見返り柳」

東京都台東区千束を特集します。



寅さんの息づかいが聞こえる町 柴又



柴又帝釈天 (東京都葛飾区)



東京都葛飾区柴又四丁目にある京成電鉄金町線柴又駅(地図①)。柴又駅は帝釈人車鉄道の駅として明治32年に開業しました。周辺は山田洋次監督の映画『男はつらいよ』の舞台となったことでも知られています。駅前には俳優・渥美清(あつみきよし)さんが演じた“フーテンの寅”こと車寅次郎の銅像が建立されています。



『男はつらいよ』は昭和43年～昭和44年、フジテレビが制作・放送したテレビドラマが最初となっています。映画シリーズは松竹によって昭和44年～平成7年までに全48作、平成9年に特別編1本が製作されました。



参道沿いには劇中に登場する草だんごの老舗があります。木造瓦葺きの建物は明治時代に建てられたもので、創業当時の風情を



京成電鉄柴又駅前から続く参道の突き当たりにある柴又帝釈天(しばまたたいしゃくてん:写真②)。正式名称は「経栄山 題経寺(きょうえいざんだいきょうじ)」となっています。いまから385年前の1629年、江戸時代前期に創建されました。



「矢切の渡し」が全国的に有名になったのは、伊藤左千夫(いとうさちお)の小説『野菊の墓』(明治39年)によるところが大きいと言われています。



■アクセス  
京成電鉄金町線柴又駅下車すぐ



江戸川の渡し舟として有名な「矢切の渡し」。東京都葛飾区柴又と千葉県松戸市を結んでおり、現在も渡し舟が運行されています(地図③)。



柴又を歩いて

柴又帝釈天参道の両側には、柴又名物の草だんごや塩せんべい、くずもち、老舗の川魚(ウナギ・ドジョウ・コイ)料理店などが所狭しと軒を連ねています。また、帝釈天から「矢切の渡し」に向かう途中にある「葛飾柴又寅さん記念館」では映画『男はつらいよ』の世界を楽しむことができます。